久木小学校区住民自治協議会・広報誌

住民協 ひろば

第８３号　（準備会から通算第 104 号）
発行日　　令和６年３月２日
発行所　　逗子市久木２－１－１
　　久木小学校区住民自治協議会
発行人　　山崎　徳次郎

・・・What：何をやるか
How：どうやるか・・・

たとえば新しい仕事を任されたとき、誰しも不安になると思います。やり方がわからない、どうやったらいいだろう？　私はそんなときには、まず Whtat、つまり今、何をしなければならないかを考えます。どうやったらいいかではなく、今やらなくてはならないことを考えます。

私が昨年 4 月から山の根親交会の会長を務めることになったとき、当然ながら不安になりました。役員の経験は１年しかなく、お手伝い程度しかしていません。いろいろなイベントもコロナの影響で中止になったりしていて実際に経験していません。

そのためまず考えたのは親交会が行っていることを洗い出すことでした。町内会として何を行っているかがわからない以上は何もできません。そのため前会長、元会長、役員さんたちに集まってもらい、週１回、１か月をかけて、毎月行っていることを出してもらいました。

そうやって、やること「What」はわかりました。次はどうやるかです。町内会の運営についてマニュアルはありません。過去の資料を見ると、市役所へ提出した書類や名簿、イベントについても簡単な配置図くらいしか記録がなく、写真 1 枚ありません。となると皆さんに聞くしかありません。親交会の役員さんたちにやり方、つまり「How」を確認しました。

何をやるか「What」がわかり、やり方「How」がわかったら、後はやるだけです。やり始めると、ここはこうした方がいいのではないか、あるいはこのやり方は間違っている、ということがわかりました。そして必ず写真を撮り、メモをして記録を残しました。写真があれば次回のときにどうしたらよいか一目瞭然です。それがマニュアルになり、次に引き継がれていきます。

新しいことをするときにはいたずらに不安がらず、まず何をやらなくてはならないかを確認する。次にどうやるかを確認する。私はそうやって仕事をしてきました。ご参考になれば幸いです。

校区住民協　副会長　瓶子純一
（山の根親交会会長）

令和６年２月度役員会

開催日時と場所：2024 年２月３日（土）13 時　00 分～15 時 15 分　久木会館
出席者：10 名（内役員７名）

議題

(1) 行政からの連絡事項

○第 71 回逗子市内一周駅伝について

1/14 に実施された市内一周駅伝に関し、地域の住民の協力により、滞りなく実施出来た事に謝意、が示された。本件に関し、今回コース変更された事で、分岐点でコース指示をする管理者の中に、コースの理解をしていない人が見ら

れた。指示を担う人材のコース理解の教育をしっかり行うことが必要だとの意見が出された。

○逗子市地域福祉推進計画・逗子市地域福祉活動計画について

堀田氏より、上記計画の策定内容の概略が説明され、重層的支援事業等に関連して、より良い地域醸成の為に、地域住民の協力が要請された。

本件に関し、下記のような意見が出された。

・包括支援センターが福祉施策の多方面の入り口となっているのに、西部包括センターには定員６名のところ３名の状態が半年以上続いている、至急改善して貰いたい。

・高齢者住居の草刈りなどが、地域包括支援センターから自治会のお互いさま活動で対処するよう要請がくるが、自治会の役員も高齢で対応できる人がいない。市の中にそういった依頼をシルバー人材センターなどに依頼するような独立組織を作ったらどうか。

・住民が対処出来る問題と、専門組織でないと対処出来ない問題が混ざり合っていて、施策の実施には、整理が必要だ。

・例えば、会館ごとに、地区社協のような組織を作って、福祉課題のコーディネートをするようにしたら良いのではないか。拠点部会にバックアップの専門機関が寄り添う体制をもあり得るのではないか。

・前回の計画の課題をきちんと整理していない。ただの上塗りに終わらないようして欲しい。

また、事務局より、住民協の役員会メンバー全員の参加求めて、再度この問題につき協議していきたいので、市としても協力するよう要請された。

---

(2) 事務局からの報告事項

①逗子市住民協意見交換会の件(1/19(金)開催)

今回は、関係各部の同席はなく、市民協働課のコーディネートもあまり機能していなかったが、今後とも、地域自治条例(住民協条例)の早期制定につき、プッシュしていくことが説明された。

---

(3) 審議事項

①「住民協ひろば特別号第７号防災特集」について

瓶子氏より、原稿完成が報告された。

２月５日に印刷所にデータを渡す。5700 部の冊子印刷は２月 19 日の週に完成予定。

広報逗子３月号と一緒に全戸配布の依頼を朝日新聞にするので、何時迄に冊子を渡せばいいのか、事務局が確認することになった。

本特別号に関し以下のような意見が出された。

・本特別号を、各自治会が次のテーマを考えるテキストとして欲しい。

・経緯の説明だけでなく、もう少し自分たちの主張があっても良かった。

・他の地域、市役所内でも有効活用して欲しい。

②その他

２月６日 13 時～15 時に防災無線に関する打ち合わせを予定していることが報告された。

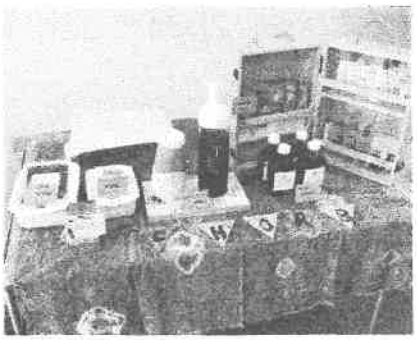
本打ち合わせに際し、各自治会に必要な防災無線の数を確認しておくように、事務局からメール依頼することが確認された。

≪連載≫　久木朝市ひろば【Chorb(チョーブ)

石井　朋子(久木在住)

久木朝市でスパイスやタイ食材を使った辛くないグリーンカレーペーストを販売しているchorb（チョーブ）の石井朋子です。

娘が幼稚園へ通っていた頃、ママ友たちとの集まりで何度かタイのグリーンカレーを作って食べる機会がありました。その美味しさにハマり自宅でも作って食べるようになったのですが、市販のペーストは辛くて子どもたちには別の食事を用意せねばならず、『簡単に美味しく作れるグリーンカレーのはずが…全然簡単じゃない！』と



思いながらパッケージの原材料を眺めていたある日、ふと、『地元の人達はペーストから手作りしているなら自分でも辛さ調節しながら作れるんじゃない？』と思いついたのがキッカケで作り始めました。
お裾分けをしたりしている内に販売してみない？と言う声を次第に掛けてもらうようになり久木朝市でも出店するようになりました。最近では「おかんクルー」と言う13人のおかん（お母さん）たちによるユニットに参加させて頂きキッチンカー出店に挑戦しました！
思いつきから始まった趣味が色々なご縁で世界が広がり楽しみながら販売しています。どこかで見かけた際には是非お声掛け下さい♪

≪レポート≫　カーボンニュートラル

18. GX（続）

③GX実現に向けた基本方針（続）

（1）. エネルギー安定供給の確保を大前提にしたGXの取組み（続）

⑬カーボンリサイクル/CCS	
★ カーボンリサイクル燃料：カーボンリサイクル燃料は、既存のインフラや設備を利用可能であり、内燃機関にも活用可能であるため、脱炭素化に向けた投資コストを抑制することができるとともに、電力以外のエネルギー供給源の多様性を確保することでエネルギーの安定供給に資する。メタネーションについては、燃焼時の CO2 排出の取扱いに関する国際・国内ルール整備(注Ⅰ) に向けて調整を行い、化石燃料によらない LP ガスも併せて、グリーンイノベーション基金（注2）を活用した研究開発支援等を推進するとともに、実用化・低コスト化に向けて様々な支援の在り方を検討する。 SAF や合成燃料（e-fuel）については、官民協議会において技術的・経済的・制度的課題や解決策について集中的に議論を行いつつ、多様な製造アプローチ確保 のための技術開発促進や実証・実装フェーズに向けた製造設備への投資等への支援を行う。	（注1）メタネーションにより作られる合成メタンは、回収したCO2を利用（CCU）して製造する、カーボンリサイクル燃料である。カーボンリサイクル燃料の燃焼時のCO2排出が国内外の制度等でどのように扱われるかというCO2カウントの問題は、合成メタンを含むカーボンリサイクル燃料に共通するが、現時点で明確に定まっていない。 （注2）2050年カーボンニュートラルの実現に向けて経済産業省とNEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）が立ち上げた基金。野心的な目標を定め、経営課題として取り組む企業を支援し、NEDOが2兆円の基金を創設した。グリーン成長戦略おいて重要分野に指定されている、エネルギー関連産業、輸送・製造関連産業、家庭・オフィス関連産業が支援の対象となる。また、2030年を目標とし、社会実装まで視野に入れたプロジェクトであることも必要とされる。
★バイオものづくり（注Ⅰ）：初期需要創出のため、例えば、公共調達において、より広範にバイオ製品を利用するよう位置付ける、又は、農業などの異業種展開による市場の拡大を図る。 CO2等を原料とする認証、クレジット化等することにより、価格に適切に反映、また製造プロセス評価や再利用・回収スキームの確立など各種取組によって、バイオ製品利用にインセンティブを付与する。	（注Ⅰ）バイオものづくりとは、生物由来の素材を用いてものづくりを行うこと、さらには微生物などの生物の能力を活用して有用化合物などを作り出すことをいう。化石燃料を原料としないで物質の生産を行うことができることから、CN 実現のキーテクノロジーとして大きな期待が寄せられている。いま注目されている「バイオものづくり」の特徴として、遺伝子工学やゲノム編集などの技術を用いて、人間が必要とする物質の生産のために微生物などの能力をデザインしていることがあげられる。

★CO2 削減コンクリート（注Ⅰ）等：市場拡大に向けて、CO2 を削減する効果のあるコンクリート製造設備や炭酸カルシウムを利用する製品等に対して導入支援の実施や需要喚起策の検討を進める。 製造時のコンクリート内 CO2 量の評価手法を確立するとともに、全国で現場導入が可能な技術から国の直轄工事等において試行的適用を進め、今後技術基準等 に反映しながら現場実装につなげる。	（注Ⅰ）コンクリートの原料となるセメント製造時に発生する CO2 の回収と再利用、セメントに混和してコンクリート化する際に CO2 を吸収する材料開発の 2 ステップがあり、究極的には CO2 のマイナス化が期待される。 構造物に使われるコンクリートは長期安全性の保障が大前提となるため、品質基準や CO2 固定の評価等が重要な課題である。
★CCS（注Ⅰ）：2030 年までの CCS 事業開始に向けた事業環境を整備するため、模範となる先進性のあるプロジェクトの開発及び操業を支援するとともに、CO2 の地下貯留に伴う事業リスクや安全性等に十分配慮しつつ、現在進めている法整備の検討につ いて早急に結論を得て、制度的措置を整備する。	（注Ⅰ）国の調査では CCS の適地での貯留可能量は 160 億トンと推定。事業化に当たっては、「CO2 圧入貯留権」の設置、事業者の負う法的責任、リスク管理等の法整備を含め、事業を進める環境整備が重要である。 CCS：Carbon Dioxide Capture and Storage CO2 の分離・回収と貯留
⑭食料・農林水産業	
みどりの食料システム戦略（注Ⅰ）、みどりの食料システム法等に基づき、脱炭素と経済 成長の同時実現に資する農林漁業における脱炭素化、吸収源の機能強化、素材をいかしたイノベーションの推進等に向けた投資を促進する。	（注Ⅰ）農水省が策定した、食料を安定して供給できるシステムを目指す方針。日本は地震や台風などの災害に見舞われることが多いのに加えて、農業や漁業に携わる生産者も減少しつつあり、食の安定供給への対処が急がれているとともに、食糧問題は、国内外で注目を集める SDGs や環境問題と深く関係している課題である。環境に配慮した持続可能な食料システムを構築するための方針でもあると共に、食の生産力を向上するのはもちろん、消費・雇用など流通にも目を向けて、現代において、農業や食品産業の生産性と持続性を両立するためのガイドラインという位置付である。
次号から3.「成長志向型カーボンプライシング構想」の実現・実行、を掲載予定	

鈴木　為之（山の根在住）

編集後記

「フィルターバブル」とSNS・・・先日、大手の情報管理会社の専門家の友人との会食の中で、「フィルターバブル」と云う言葉を耳にした。インターネット利用時に検索等を重ねて行くと、情報の提供業者はそのシステムの中にその利用者の傾向に合った情報を自動的に選択し提供する様になっているという。即ち利用者はその傾向を持った情報の「バブル／泡の中」にいる状態を云うらしい。また、利用者自体も自分の傾向に合った情報のみに耳を傾ける事になる。

2016 年のヒラリー・クリントンとトランプの大統領選挙時に指摘されたのは両陣営とも極端に云えば自分の陣営の情報しか見えなくなることが指摘されたらしい。また、最近の事例ではコロナ禍の予防接種忌避の情報が一部で拡がった事も記憶に新しい。

情報提供業者は効率的に利用頻度を上げる事が出来、利用者は自分の好みに合った情報を効率的に入手する利点を享受出来るのだが、バブルの外の多様な情報も情報の選択枝として持つべきで、SNS 以外の新聞や多様な情報源、多様な人の意見に耳を傾けるべきなのだろう。

事務局長　石井　達郎